

第3次食育推進計画 パブリックコメント

意見の概要	市の考え方
<p>【食の安全性について】 食の安全性についての内容が不十分です。オーガニックや有機農産物の推進と啓蒙を食育推進計画に追加して下さい。</p>	<p>有機農法で栽培された農産物は、より安全・安心な食材であることは認識しておりますが、法律で認められた農薬、化学肥料を基準の範囲内で使用し栽培された農産物についても安全性は確保されているものと考えており、市民1人ひとりが自らの価値判断で選択することが大切なことと考えております。</p> <p>なお、「食の安全」という切り口での本計画への記載はなじまないと判断しましたが、有機農業は、地球環境に優しい生産方式として注目されており、既に、本市においても、農薬や化学肥料を5割以上低減する生産者の取り組みや環境保全に効果の高い営農活動に対する支援を行っております。また、国では、昨年策定した「みどりの食料システム戦略」の中で30年後を見据え、耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%に拡大する目標を設定しており、本市においても国と歩調をあわせ、有機農業を推進してまいります。</p>
<p>【食の安全性について】 食の安全性についての内容が不十分です。家畜の動物福祉を大切にした畜産物の食育も欧米では当たり前で、非常に重要な項目です。</p>	<p>ご意見のとおり、家畜をストレスや苦痛の少ない環境で、愛情をもって育てる「アニマルウェルフェア（動物福祉）」の考え方は、非常に大切なことと考えています。海外に比べ、取組みが遅れているばかりか、日本人の90%近くが、この「アニマルウェルフェア」という言葉を知らないとの調査結果がありますことから、今後、市が主催する農林業体験事業や食農教室などの場で機会があれば、アニマルウェルフェアの考え方などを伝えてまいりたいと考えております。</p> <p>なお、今回の計画では、具体的な事業は列記せず、大きな方針を示しており、有機農産物と同様に、パッケージの記載や認証マークなどから、消費者が自らの価値判断で選択する力を身につけていただきたいと考えており、そのような旨の記述とさせていただきます。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>【体験を通じた食の学習について】 未就学児から小学生の親子にたいして味噌作りの講座、座学含めて行って見たら食にたいして興味もてる親子が増え健康増進にも繋がると思う。本来は大豆、塩、麴のみでつくられ添加物も入らないでつくります。スーパーとのちがい等なかなか教わることのない中、市として取り組んでもらえたら嬉しいです。</p>	<p>乳幼児期や学齢期の食の体験は、生涯にわたる健やかな食と暮らしの基礎となると考えております。地域の子どもや保護者を対象に、昔ながらの味噌づくりなど、食材から色々な料理や調味料ができていくことを楽しみながら知ってもらおう食育活動の実施を検討してまいります。</p>
<p>【減農薬への取り組みについて】 地産地消は輸送時間が短いことから新鮮である分栄養価が高く輸送コストも抑えられエコな取り組みであり、地元農家を支えることにもなるのでとても良い取り組みだと思えます。 それに加え地産地消がさらに価値あるものとなり、安心安全であることが重要だと考えます。栽培履歴にもこだわりを持ち、減農薬、無農薬栽培を推し進めていくよう取り組みを希望します。</p>	<p>有機農業は、農薬を使用した従来型の農業と比較すると、生産者にとっては、手間が増える、収穫量が落ちる、品質の安定が難しいなどの問題があり、消費者にとっては、価格が割高になるといったデメリットを抱えております。しかしながら、国内外において、SDGsや環境への対応が重要となっている中、地球環境への負荷を低減する生産方式として、国と歩調を合わせ、中長期的な視点で、本市においても取組を進めていかなければならないものと認識しております。 なお、環境に配慮した有機農業の推進については、他の計画（本市の農業に関する基本方針など）に記載しております。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>【体験を通した食の学習について】 実際に、畑に赴き生産者との交流や屋外活動の場を設け体験を通じて学ぶ機会を設けていただきたいと思います。これらの体験が、農業や生産等に携わる人々、食についてより身近に感じられ関心を持つ機会となると考えます。</p>	<p>ご意見のとおり、乳幼児期や学齢期の食の体験は、生涯にわたる健やかな食と暮らしの基礎となると考えております。保育園や幼稚園での農作業や収穫体験や、小学校での体験を通した学習等、食への関心や生産者への感謝を深めるような活動を今後も続けてまいります。</p>
<p>【食の安全性について】 食の安全の正しい知識と理解を深めるための支援として、添加物に関する情報発信も積極的に取り組んでいただきたいと思います。商品を購入する際、産地を気にかける消費者はいると思いますが、加工食品を選ぶ際に原材料の産地や遺伝子組み換え食品の有無、添加物まで確認する消費者はどのくらいいるのでしょうか。その理由は、知識がないから見ても分からない、情報がないから関心がないというのも理由の一つだと思います。そこで、学校教育課程の中で子どもたちに食品添加物について学ぶ機会を作ることが重要だと考えます。</p>	<p>食品添加物に関する学習機会につきましては、文部科学省が定めた中学校学習指導要領【技術・家庭編】に基づき指導することとされているところであります。内容としましては、</p> <p>①加工食品については、身近なものを取り上げ、その原材料や食品添加物、栄養成分、アレルギー物質、期限、保存方法などの表示を理解して用途に応じた選択ができるようにする。</p> <p>②生鮮食品と加工食品との比較から、加工食品の種類やその意義についても触れ、加工食品を適切に利用するために表示を理解することが必要であることに気付くようにする。</p> <p>③食品添加物や残留農薬、放射性物質などについては、基準値を設けて、食品の安全を確保する仕組みがあることにも触れるようにする。</p> <p>以上の観点により、指導に当たっては、例えば、調理実習で使用する生鮮食品や加工食品の表示調べをしたり、手作りのものと市販の加工食品などを比較して用途に応じた選択について話し合ったりする活動など、各学校で指導を行っているところであり、引き続き生徒が理解しやすい授業となるよう取り組んでまいります。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>【体験を通じた食の学習について】</p> <p>社会的な情勢により活動が制限されながらも、食への取り組みはデジタル通信では発信しきれるものではありません。食は、自然環境の中で育まれるものです。デジタル機器等の利用も取り入れつつ、戸外での活動を主体に実施して生きた学びに繋がる取り組みの検討が必要と考えます。</p>	<p>乳幼児期や学齢期の食の体験は、生涯にわたる健やかな食と暮らしの基礎となります。五感を通じた体験と、デジタル機器等を活用し、子ども達の食に関する経験や学習に取り組んでまいります。</p>
<p>【減農薬への取り組みについて】</p> <p>北海道稲作の発祥から町が発展した歴史もあることから、環境と生産者消費者にも配慮した減農薬、無農薬米への取り組みを希望します。水田が広がることで自然環境が維持拡大され生き物が増え、ひいては市民にとっても住みやすい魅力のある市になると考えます。</p>	<p>農薬を減らす、使用しない農業の推進につきましては、農業の有する多面的機能の発揮促進のため、農業者等が実施する化学肥料・化学合成農薬を原則5割以上低減する取組と合わせて行う地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動に取り組む場合に、国や北海道とともに支援を実施しています。</p> <p>なお、本市においては、過去に、無農薬米（消費者協会と生産者との協定締結）の事例が1件ありましたが、平成26年度から生産者の高齢化により、手間がかかる無農薬米の栽培は困難となり、低農薬米となっているところであります。</p> <p>今後、農業者から農薬を減らす、使用しない作付に関して相談がありました場合は、引き続き関係機関と連携を取りながら進めてまいります。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>【遺伝子組み換え作物等について】</p> <p>食に関する正しい知識を学ぶためには、偏らない情報が大切だと考えます。遺伝子組み換え作物とゲノム編集作物は、今後の社会にとって大きな問題であり学齢期から関心を持ち考える力をつけることが重要になります。将来にわたっての安全性は確証されていないことなど、メリットとデメリットも含めた情報の発信を希望します。</p>	<p>遺伝子組み換え技術やゲノム編集技術は、短期間で農作物の品種改良が可能となる画期的な技術であると認識しておりますが、一方で、これを食品に応用することに対して消費者が不安や疑問を抱いていることも承知しております。</p> <p>ゲノム編集食品の流通にあたっては届け出、遺伝子組み換え食品の流通にあたっては、各種の安全審査が義務付けられておりますが、新しい技術であり、新たな科学的知見が得られた場合には、現在の取扱いを見直すこととしておりますことから、国の動きを注視してまいりたいと考えております。</p>
<p>【歯の健康について】</p> <p>フッ素は、日常の生活の中で身近に存在しています。また、歯科通院でフッ素塗布をされている家庭も少なくないと思います。以上の事から、教育現場における更なるフッ素洗口の必要性はないと考えます。市における虫歯の予防の取り組みは、洗口ではなく嗜好品の選択や摂取量、摂取時間や回数等の指導。及び、歯磨きに関する指導が重要であると考えます。</p>	<p>食育における歯の健康は、生涯を通じた健康で楽しい食生活を送るために大切であり、ご意見のとおり、本市においても嗜好品の種類や量、摂取時間や歯磨きの方法を学習することが、むし歯の予防になると考えております。</p> <p>なお、フッ化物洗口につきましては、安全性、有効性が認められていることから、継続してまいりますが、現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止しているフッ化物洗口を再開する際には、保護者の方に、十分説明をした上で、実施有無を判断していただこうと考えております。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>【学校給食の内容について】</p> <p>日本の伝統食である和食を中心とした学校給食を積極的に取り組むことを希望します。現在、和食メニューにも牛乳が出ていますが食べ合わせとして疑問を感じます。また、週3回米飯が提供されていますが、和食の提供回数を増やす検討を希望します。パンに関しては、菓子パンではなく、主食となるようなものを検討して頂きたいです。虫歯の予防にも力を入れている中、食事に菓子パンが提供されることに違和感を覚えます。何かのイベントなど、特別な日にするなど提供方法の検討を望みます。</p>	<p>学校給食における牛乳の提供、ご飯及びパンの提供回数やパンの種類等につきましては、ご意見及びご提供いただいた各種資料を踏まえ、本市の学校給食の提供にどのように反映できるか、他自治体の取組等の把握・確認を行いながら、よりよい学校給食となるよう調査研究に努めてまいります。</p>
<p>【学童保育でのおやつについて】</p> <p>学童保育でのおやつ提供に関して取り組みの検討を希望します。私の知る市内数か所の学童におけるおやつの内容は、ジャンクフードが中心です。食育の取り組みが、継続して行われていないことが残念です。</p>	<p>学童保育のおやつについては、日本人の食事摂取基準を基に、摂取エネルギー量、アレルギー対応を考慮して提供しております。日々提供するおやつを通じて、子どもの健やかな成長発達につながるよう、内容についても引き続き検討してまいります。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>【食を支える環境について】</p> <p>食育基本法や、推進計画にもあります「食を支える環境や文化への理解の推進」など、「食と環境の調和」「食への感謝の気持ち」「食の安全性」を市民へアプローチする際には、単にこれまでのような切り口では、自分には当て嵌まらないとか、関係がないと解釈された場合には、どれだけ周知活動を行っていても人々の意識に影響を与える事は至難の業かと想像が付きまします。個人的見解と提案ですが、基本的に食べ物が生産される根源は「土、水、海」などです。</p> <p>この大自然の恵みとして食べ物を消費しているというアプローチを行ってはいかがでしょうか。北海道の風土にも合っていますし、昔ながらの日本の食への考え方そのものです。</p>	<p>食育は、「食」に関する知識や「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることを目標としており、その取り組みが広範囲に及ぶことから、本計画では4つの大きな視点を設定し、本市としての進むべき方向性を示しているところであります。</p> <p>ご指摘のとおり、私たちの食生活は自然の恩恵の上に成り立っており、その背景にある様々な「自然の恵み」はもとより、動植物の「いのち」を感じていただくことは大切なことと認識しております。本市では、これまでも、収穫体験等を通じて、その背景にある「農業」について考えてもらう食農教育を推進しておりますが、新たな計画におきましても、食農教育を取組の一つとして位置づけしているところであります。</p> <p>今後も、引き続き、体験や学習を通じて、食材となる自然の恵みや、命をいただいた動植物に対して、思いが馳せられるような食育事業に取り組んでまいりたいと考えております。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>【食育について】</p> <p>なぜ食が大事なのかというテーマが無いです。</p> <p>その議論や考察、データの比較などが無い中で大切大切と言われてもピンとこないのではないのでしょうか。</p> <p>個人的には、特定の物を取り過ぎた場合には(糖や質の悪い油や添加物、農薬、化成肥料など)具体的な身体がどのように代謝し、負担があるのか、負担のある食生活を継続した場合に推測される病名を出していいのではと思います。うつ病や癌など血糖値に関連している情報もあります。</p>	<p>食は毎日の生活習慣であり、食のバランスが崩れることによるエネルギーや食塩の過剰摂取、野菜の摂取不足等の栄養の偏り、朝食の欠食といった不規則な食事等が原因となり、肥満、高血圧、高血糖等の生活習慣病につながると考えております。性別や年齢、活動量に応じて、適切な量が異なることから、市民が自分の食生活を振り返り、基準と比べて多すぎたり少なすぎたりしないかを、ライフステージ全体で学習できるように取り組んでまいります。</p>
<p>【黙食について】</p> <p>黙食推進はいますぐやめていただきたいです。黙食を行った場合、行わない場合のデータが国にも無いのであれば仮説に過ぎません。根拠のないものを推進する事をやめていただきたいです。コミュニケーションすら取るなど言っているのですから。食育と正反対です。</p>	<p>家族や仲間と楽しく食事をする事は、コミュニケーションを深め、豊かな食体験につながる機会と考えておりますが、現在は新型コロナウイルス感染症対策で、社会情勢に応じた対応も求められています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で、地域で集まる機会を確保することが難しい状況にあります。対応を工夫しながら、コミュニケーション豊かな食体験につながる共食の機会を提供できるような食育の推進を、地域や関係機関と連携して取り組んでいきたいと考えております。</p>